

⑬

服部緑地（豊中市）

文・写真 平石 俊郎(服部緑地自然を楽しむ会)

服部緑地には、日本民家集落博物館、都市緑化植物園、競技場、運動場、野外音楽堂などの各施設を取り囲むように緑地ゾーン（ため池も含む）が広がっている。ゾーンは、竹林や梅林をはじめ、クヌギ、アベマキ、アラカシ、マツ、ニレ、ソメイヨシノなどの樹木類やその空間を埋める草地（原っぱ）、ため池で構成されている。「服部緑地自然を楽しむ会」では、樹木や草地、ため池（水鳥）を中心に自然観察会を実施している。タンポポの観察会での一例。「えーっ」と参加者の皆さんが一様に驚くことがある。予想に反して草地に生きるタンポポのほとんど（9割以上）がカンサイタンポポなのである。カンサイタンポポにとって豊かな生育環境が維持されているのだろう。「来年の春もカンサイタンポポと会えるといいね。」と参加の子どもたちと別れる。いつまでも残ってほしい自然環境である。また、セミ羽化観察会での忘れられない言葉がある。羽化が始まると「赤ちゃんが生まれた!」と叫んだ幼児の言葉である。観察活動が、純真無垢な子どもたちの心に「豊かな自然を守ろう」という種や芽生えの肥やしになることを願っている。



カンサイタンポポの群生



セミの羽化

⑭ 淀川右岸・西中島～十三地区のヨシ原と干潟

文・写真 中野 勝弥(淀川自然観察会)

大阪の玄関、梅田から大阪メトロ御堂筋線の中津駅を過ぎると直ぐに広大なヨシ原が車窓から飛び込む。ここは大阪湾からおよそ8km付近。2km上流には淀川大堰があり、潮の満ち干の影響を受ける汽水域で、干潮時にはヨシ原周辺に干潟が干出する。このヨシ原と周辺の干潟には、四季をとおして多種・多様な生き物が生息する。ヨシをかき分けヨシ原に入るとカニの巣穴が点在。おびただしい数のクロベンケイガニやカワザショウガイが生息。初夏にはオオヨシキリの繁殖地となり「ギョギョシ・ギョギョシ」と独特のさえずりが、ヨシ原のあちらこちらから聞こえて来る。冬季には、オオジュリンやツリスガラで賑わい、猛禽類のチュウヒも毎年飛来・越冬する。生態系の頂点にある猛禽類が生息することが、干潟を含むこのヨシ原一帯が、豊かな生態系を形成していることの証。このヨシ原を含む淀川の汽水域が、「大阪府レッドリスト2014」の生物多様性スポットのAランクに選定されており、大都市大阪に残された貴重な自然空間で、生き物ワンダーランド。対岸の高層ビルが立ち並ぶ街並みとは別世界。



鮮やかなグリーン色になった初夏のヨシ原



ヨシ原上空を優雅にV字飛翔するチュウヒ